

2020 年度
しあわせキャリア支援センター
活動報告書

目 次

ご挨拶	1
学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター体制図	2
I. 育児支援	3
II. 研究支援	3
III. キャリア教育支援	4
IV. 定例会議	4
V. 研究支援員配置制度に関する規則の改正	5
VI. ベビーシッター派遣事業割引券の発行	5
VII. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)に係る取組	5
(1) ダイバーシティ研究環境整備のための取組	5
(2) 女性研究者の研究力向上のための取組とそれに通じたリーダー育成のための取組	7
(3) 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組	8
資料(1)	10
資料(2)	14
令和2年度 学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター構成員	15

ご挨拶



学校法人日本医科大学
しあわせキャリア支援センター
センター長 土佐 眞美子

2020年度は、昨年度末から引き続き、コロナ禍での活動となり、対面での講演会や懇親会などが実現できない中、オンライン方式をフル活用して、ダイバーシティ研究環境実現、女性研究者の研究力向上、女性研究者の上位職登用促進のための様々な支援事業を展開いたしました。

具体的には、保育補助や研究支援員および研究費補助を継続しつつ、新たに、短時間勤務女性医師任用制度利用者のキャリア継続支援を開始いたしました。短時間勤務で働く女性医師に対してメンターが寄り添い、可能な支援情報提供やモチベーションの維持のお手伝いをして、将来それぞれが希望するキャリアの実現に繋げていかれればと考えています。さらに、若手研究者を対象としたキャリアデザインプロジェクトを開催し、普段会う機会が少ない各教室の若手研究者達がリモートで集まり、研究現場における課題解決法について討論しました。

海外研究留学支援に関しては、留学経験者のインタビュー集を作成し、昨年度のアンケート結果で留学を妨げる要因としてあげられていた育児への対応を含め、留学のきっかけ、金銭面のサポート体制など留学者からの生の声を届けました。また、ホームページ上では留学地域情報や、奨学金情報などを情報提供しました。留学待機者がいる中、コロナ禍終息に向け、意識の醸成に努めました。

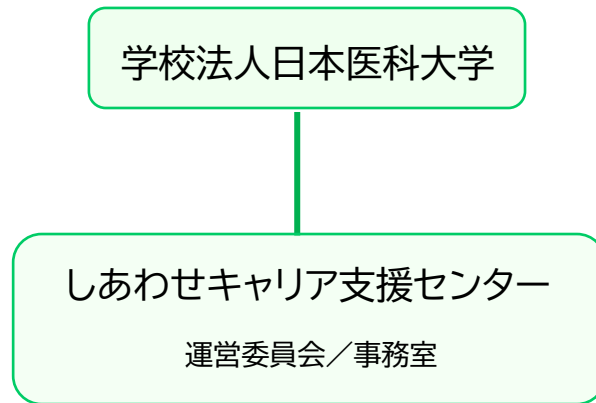
延期となっておりました補助事業のキックオフシンポジウムも、理事長、両学長のご指導のもと、無事開催することができました。また、森田明夫大学院教授には、英語科学論文書き方講座配信にご尽力いただき、その他多くの皆様に支えられ活動することができましたこと、心より、感謝申し上げます。

しあわせキャリア支援センターは、千駄木図書館1階にございます。数人のスタッフが常駐しておりますので、お気軽にご利用してください。支援についてのパンフレットや育児・介護・キャリア形成・管理職のマネジメントなどに関する書籍を準備してお待ちしております。

育児や介護などのライフイベントを大切にしながら、その時にできる、その人にとってしあわせな働き方を皆様が見つげていくためのお手伝いができるように、スタッフ一同努力して参りますので、今後ともご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2021年3月

学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター体制図



～2020 年度活動報告～

I. 育児支援

●マザーネット



【2020 年度マザーネット月別利用状況】

(登録者数 30 名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3	4	9	7	13	14	14	9	6	5	7	0	91

(単位:人)※延べ人数

<利用料金補助総額 1,098,223 円> ※昨年度 1,371,918 円/97 人

II. 研究支援

研究支援員配置制度の支援対象者の拡大

2020 年 5 月 1 日付で、学校法人日本医科大学研究支援員配置制度に関する規則の一部改正がなされ、特別休暇(産前・産後)、育児休業又は介護休業中においても、代理監督者を置くことにより、研究支援員の配置が可能となった。

●研究支援員配置者数

基礎医学 1名

1)支援を受けた時間数

2020 年 7 月～2021 年 3 月まで、合計 332 時間 20 分

2)当制度を利用したことによる効果等

育児休業中においても研究支援員の配置を許可していただき、本来ならば研究が中断してしまったところを、研究支援員に実験を代わりに行ってもらうことが出来た。その結果、研究の進行を継続することが出来たことは、利用者にとって大きなメリットであり、支援員も研究を志望していたので、今回の雇用が実現したのは双方にとって貴重な機会となった。

3)研究支援員の声

実験を行う度に、実験手法に関する新たな疑問が次々に生まれたが、色々考え、調べ、周囲の人に聞くことによって疑問は解消でき、非常に勉強になった。

また、学部実習ではプロトコル通りに行えば基本的に結果は出るが、本来の実験ではなかなか上手くいかないことが多々あり、実験の難しさを感じた。例えば、細胞培養、特に LLC の培養には苦戦したが、回数をこなして慣れることの大切さもしみじみと感じた。

Ⅲ. キャリア教育支援

2020年11月10日(火)に第1学年を対象に、特別プログラムとして「医師としての未来予想図を描いてみよう」を実施した。

Ⅳ. 定例会議

当支援センターの円滑な運営を図るために、原則として隔月で委員会を開催している。通常、開催場所は千駄木であるが、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策として、メール及び Web 会議システムを利用し開催した。

第1回 2020年5月15日(金)メール会議

- ・人事異動について
- ・学校法人日本医科大学研究支援員配置制度に関する規則等の一部改正について
- ・新型コロナウイルス感染症対策のための小学校等の臨時休業等に関連した「ベビーシッター派遣事業割引券」発行について
- ・2020年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業の主な取組について
- ・短時間勤務女性医師任用に関する基準の一部改正について

第2回 2020年6月30日(火)メール会議

- ・キックオフシンポジウムの開催について
- ・2020年度の事業推進に係る役割分担について

第3回 2020年10月14日(水)午後5時～ ※Web 会議システムによる開催

- ・2019年度補助事業の実施報告
- ・JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)による「額の確定調査(令和元年度分)」報告
- ・2020年度補助事業の実施報告と進捗状況について
- ・2020年度補助事業の今後の予定について
- ・しあわせキャリア支援センターホームページリニューアルについて
- ・2021年度補助事業の事業計画(取組み)について

第4回 2021年1月6日(水)午後5時～ ※Web 会議システムによる開催

- ・2021年度しあわせキャリア支援センター事業計画について

- ・2021年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業計画について
- ・ベビーシッター派遣病児保育支援事業(マザーネット)の男性利用について

V. 研究支援員配置制度に関する規則の改正

研究支援員の支援を受けている被支援者(利用研究者)が、特別休暇(産前・産後)または育児休業、介護休業を取得した場合にも、研究活動の継続支援を行う観点から、「代理監督者」を置くことで研究支援員を継続して配置できるよう、規則等の一部改正に向け2020年3月に原案を提出し、同年5月1日付で改正された。

VI. ベビーシッター派遣事業割引券の発行

2020年3月に新型コロナウイルス感染症対策のための小学校等における臨時休校が行われることを受け、「ベビーシッター派遣事業割引券」を発行することとした。内閣府より、2020年4月以降も特例措置を延長することが発表されたことに伴い、当センターにおける取り扱いも延長することとなった。割引券は、内閣府の委託を受け公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター派遣事業制度」により発行している。今年度中の利用者数は2名(使用枚数83枚)であった。

VII. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」事業に係る取組(実施期間 2019年度～2024年度)

(1)ダイバーシティ研究環境整備のための取組

1-1 新保育支援制度の整備

夜間・早朝・休日保育または、病児・病後保育にかかる利用料の一部を補助する「病児・病後児及び休日勤務時等の保育支援制度」を整備し、2020年9月1日より運用を開始した。今年度の利用者数は、日本医科大学で1名であった。

1-2 短時間勤務女性医師任用制度利用者のキャリア継続支援整備

日本医科大学では、短時間勤務女性医師を支援するため、当該支援制度に関するマニュアル整備、制度利用者へのリーフレット作成、利用者が所属する付属4病院に担当メンターを配置するなどの体制を整えた。新規制度利用者に対し、制度及び支援体制の説明と意見交換を2020年10月1日より開始した。

1-3 新型研究支援員配置制度の継続

1週間当たり最大20時間の研究支援を受けることができる制度を継続し、妊娠・出産、育児、介護などのライフイベントにある女性研究者の研究活動の維持と促進を図った。今年度の配置者数は、以下の通り。

日本医科大学:8名(うち男性2名)

日本獣医生命科学大学:4名

1-4 医学・生命科学領域の共同研究の促進・共同研究案の公募継続

代表機関と共同実施機関を跨ぐ共同研究の公募に対し、One Health実行委員会における審議の結果、以下の通り採択され、1件につき100万円の研究費の補助を行った。

また、2021年3月31日に、2019年度及び2020年度採択者による研究発表会を実施した。

日本医科大学:3件

- ・子どもの痛みの表出が養育者に与える影響の検討
－比較心理学の視点から－
- ・アミノ酸代謝の能動的変動が腫瘍組織内マクロファージにどのような機能変化を与えるか
- ・色素幹細胞の活性化に関わる紫外線の作用機序の解析

日本獣医生命科学大学:3件

- ・咀嚼の有無が分子レベルの味覚・嗅覚認知に与える影響
- ・紅茶および紅茶とともに摂取する食品成分が茶ポリフェノールの生理活性に及ぼす影響の解明と茶消費実態から考察される茶の健康機能に関する研究
- ・ネコ難治性膵外分泌腺がん細胞株の樹立と性状解析および治療戦略探索

1-5 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトの発進準備と開催

- ①2020年9月から11月にかけて、本プロジェクトを実施した。女性・若手研究者がグループに分かれ、医学・生命科学研究者のキャリア形成に伴う課題について調査・研究し、その成果を発表した。参加者には本事業の支援制度(新型研究支援員配置制度)の応募に際しポイントを付与することで、女性の上位職登用につながる仕組みを採用した。

【今年度の研究課題】

効率の良い留学、研究費獲得方法、研究ポスト獲得方法、
産学連携共同研究の展開方法、国際共同研究の展開方法、
効率的な研究成果発表

参加者数:34名(男性10名、女性24名) 平均年齢 40.7歳

- ②2020年11月28日に、前述のプロジェクトの成果発表会と合わせ「研究人材育成セミナー」を開催し、女性・若手研究者のキャリア支援を推進した。
参加者数:41名(会場18名、オンライン23名)

1-6 全学的なダイバーシティ意識の醸成とロールモデルによる女性研究者の意識改革

①2020年8月29日に本事業のキックオフシンポジウム、11月21日及び12月17日にダイバーシティ推進講演会、2021年3月27日にシンポジウムを開催し、ダイバーシティの理解・浸透を深め、意識醸成に取り組んだ。

それぞれの参加者数は、以下の通り。

- ・キックオフシンポジウム:会場参加者42名、配信による視聴参加者468名
- ・ダイバーシティ推進講演会<11月>:49名
- ・ダイバーシティ推進講演会<12月>:63名(会場38名、オンライン25名)

②本事業のウェブサイトとニュースレターにおいて、ロールモデルの紹介、ワーク・ライフ・バランス等に関わるアンケート調査結果報告、エッセイ等を掲載しダイバーシティ意識の醸成に取り組んだ。今年度は、2020年7月に第2号、2021年1月に第3号を発行し、配布した。

1-7 他機関のシンポジウム、セミナー等への参加

2020年11月10日(火)に、全国ダイバーシティネットワーク東京ブロック主催の課題別ワークショップ(オンライン開催)において、当センター副センター長が「遠隔授業の導入-新しい教育方法の構築-」の話題提供を行った。

(2)女性研究者の研究力向上のための取組とそれに通じたリーダー育成のための取組

2-1 研究力向上に向けた「留学支援」の促進

留学支援の促進のため、留学経験者へのアンケート調査を実施し、留学支援に関わる情報を収集し、それを元に以下に取り組んだ。

- ①留学経験のある女性研究者を集めた講演会を企画していたが、新型コロナウイルスの影響により開催を見送ることとし、代替として経験者へのインタビューを実施したものを冊子にまとめ、情報提供を実施した。
- ②留学先の育児・保育・生活の情報、および留学奨学金(助成金)に関わる情報を収集し、本事業のウェブサイトにて情報を提供した。
- ③留学中の保育に関わる奨学金制度の導入について、他機関の実施事例、保育料や渡航費の助成、学童・生徒を持つ研究者への支援、費用面以外での学内での支援等を検討した。

2-2 外部研究費獲得に向けたセミナー等の開催や学術的助言の実施

①女性研究者が英語論文をネイティブ添削に出す際の費用補助を合計22件行った。

(内訳) 日本医科大学19件、日本獣医生命科学大学3件

- ②日本医科大学では、意欲ある優れた研究能力を有する研究者6名に対し、研究力強化の支援を目的に、学内委員会と連携を図り、外部専門機関による科学研究費補助事業(科研費)獲得に向けた動画講座と研究計画書添削の支援を行った。

2-3 女性研究者の研究力向上のための特別講習等の開催

- ①研究力向上を目指す女性研究者、論文執筆経験の少ない若手の研究者等の立場にある研究者に向けた英語科学論文執筆に役に立つ内容の講座2コマを録画し配信した。
- ②研究者としてのキャリア形成に欠かせない効果的な研究成果の発表に必要なプレゼンテーションスキルを高めるため、2021年2月24日にプレゼンテーション力向上セミナーを開催し、58名が参加した。
- ③日本獣医生命科学大学では、国際学会での英語プレゼンテーション、質疑応答に対応できる研究力の向上を目的に、「研究力向上英語プレゼンテーション講座」を開講し、個別英会話レッスンには28名、オンデマンド講義には14名が受講した。

2-4 産学横断型キャリア相談窓口及び産学横断型メンター制度の継続

2020年10月1日より運用を開始した。

ウェブサイトやニュースレターで制度の周知を図り、オンラインでのメンタリングや相談に対応できる体制を整備することで、研究者が気軽に利用できる環境を整えた。

(3)女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

3-1 新型研究者支援制度の活用

1-3により、日本医科大学では6名の女性研究者に対し研究支援員を配置し、支援を行った。ライフイベントがある中においても研究活動の維持と促進が図られたことにより、1名の女性研究者が上位職へ登用された。

日本獣医生命科学大学では4名の女性研究者に対し、研究支援員を配置した。

3-2 講師(教育担当)制度の活用

日本医科大学では、2017年12月講師(教育担当)制度を創設し、教員選考において診療・教育・研究のうち、一つか二つかの領域で高い成果を上げれば評価する仕組みづくりを進めている。学生教育を担う「講師(教育担当)」を増員し、教育に優れた資質を有する女性に指導層としての活躍を期待する。この仕組みはライフイベントにある女性の活用を促進する。これにより、優れた女性上位職を積極的に登用する。

本制度を活用し、今年度は6名の女性教員が登用された。

3-3 リーダーシップ&マネジメント養成講座の開催

2020年10月9日(金)に、日本獣医生命科学大学において、「ダイバーシティ時代を共に生きる」をテーマに、渥美雅子氏(弁護士)と森下朝日太郎氏(三菱地所株式会社)をお招きし、講演いただいた。(オンライン配信)

視聴者数は、222名であった。

3-4 マネジメント養成講座の開催

武蔵小杉、千葉北総、多摩永山のいずれかの地区で開催する計画であったが、新型コロナウイルスの影響により開催を見送ることとした。今年度は、次年度開催に向けて企画立案と準備を行い、その内容について2021年3月27日(土)開催のシンポジウムでイントロダクションし広く参加を呼びかけた。

【ダイバーシティ研究環境整備のための取組】 キックオフシンポジウム

2019 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型) 《 SD研修会 》



参加費
無料

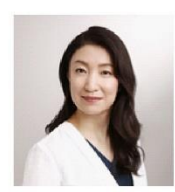
2020 年 8 月 29 日(土)13:00~15:30 (12:30 開場)
日本医科大学 橘桜会館2階 橘桜ホール (東京都文京区向丘2-20-7)

対象 : 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する教職員

事前申込制 ※定員 50名
2020 年 8 月 27 日(木)まで

※新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、参加人数を制限しての開催のため、当日の参加は受け付けません。

- 基調講演 I
「One Health実現に向けて ~ダイバーシティとインクルージョンの推進~」
(講演者)株式会社カレイディスト 代表取締役 塚原 月子氏 (全国ダイバーシティネットワークコーディネーター)
- パネルディスカッション
「ダイバーシティ研究環境実現のために必要な支援とは?」



【主催】 日本医科大学 / 日本獣医生命科学大学 / アンファー株式会社
【お問い合わせ】 学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター e-mail:app-shien@nms.ac.jp Tel:03-3822-2131(代)

文部科学省学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

Diversity

ダイバーシティ推進講演会

2020年11月21日（土）

13:30-15:00

日本医科大学 教育棟講堂

東京都文京区向丘 2-20-7

参加無料
事前申込制

働き方の未来

～女性のキャリアを考える～

講師 菊池 桃子 氏

女優・戸板女子短期大学客員教授



1984年芸能界デビュー。

幅広い芸能活動と一男一女の母として子育てを両立する傍ら、2012年3月法政大学大学院政策創造専攻修士課程修了。その後、母校である戸板女子短期大学の客員教授としてキャリア形成論等の講義を担当している。また本年、メンタルケアカウンセラーの資格を取得。研究分野は「雇用政策を踏まえた人々のキャリア形成」著書「午後には陽のあたる場所」（扶桑社）がある。

対象 日本医科大学 日本獣医生命科学大学 アンファー(株)に所属する教職員

定員 90名

申込 お申込みはこちらから
<https://forms.gle/GWzG2cXoD6r1Z9cM7>

締切り 2020年11月19日

新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、参加人数を制限しての開催となります。



主催 日本医科大学 / 日本獣医生命科学大学 / アンファー株式会社

問合せ しあわせキャリア支援センター e-mail: app-shien@nms.ac.jp TEL: 03-3822-2131

文部科学省学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

ダイバーシティ推進講演会

参加無料
事前申込制

2020年12月17日（木）
17：30-19：00
日本医科大学 橘桜ホール

キャリアを継続するための女性研究者へのメッセージ
目標を持って生きることのすばらしさ
～モチベーションを持ち続けるためには～

アルピニスト / 了徳寺大学客員教授

講師 **野口 健 氏**



1973年ボストン生まれ。高校時代に植村直己氏の『青春を山に賭けて』に感銘を受け登山を始める。1999年エベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立。

2000年からはエベレストや富士山での清掃登山を開始。小中学生を対象とした「野口健・環境学校」を開校するなど環境問題への取組みを行っている。2007年の「第1回アジア・太平洋水サミット」の運営委員として「温暖化による氷河の融解」を取り上げる先導役を務め、各国元首級への参加を呼びかけた。現在は地球温暖化による氷河の融解防止にむけた対策にも力を入れており、洞爺湖サミットでは政府に対し現場の状況を訴える等、精力的に活動を行っている。

対象 日本医科大学 日本獣医生命科学大学 アンファー(株)に所属する教職員

定員 50名

申込 お申込みはこちらから
<https://forms.gle/3AkbUfARf1BzS6K4A>

締切り 2020年12月15日

新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、参加人数を制限しての開催となります。



主催 日本医科大学 / 日本獣医生命科学大学 / アンファー株式会社

問合せ しあわせキャリア支援センター e-mail: app-shien@nms.ac.jp TEL: 03-3822-2131

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」シンポジウム

人を活かす働き方



村木 厚子 氏

津田塾大学 客員教授
1955年高知県生まれ。土佐高校、高知大学卒業後、78年、労働省（現・厚生労働省）入省。女性政策や障害者政策などを担当。2009年、郵便不正事件で逮捕。10年、無罪が確定し、復職。13年、厚労事務次官。15年、退官。困難を抱える若い女性を支える「若草プロジェクト」呼びかけ人。累犯障害者を支援する「共生社会を創る愛の基金」顧問。

2021年 3月 27日（土） 13:30～15:30

日本医科大学教育棟講堂 + オンライン開催

対象
日本医科大学、日本獣医生命科学大学、
アンファー株式会社 に所属する教職員

お申込はこちら
会場定員 50名
締切 3月23日



Program

基調講演

「ダイバーシティ」の意義と人を活かす働き方を考える

講師 村木 厚子 氏

「ダイバーシティ&インクルージョン」の重要性がどの分野でも強調されるようになりました。しかし、女性活躍一つを取ってみても、どの組織でもなかなか進まないのが現状です。日本のジェンダーギャップ指数が153か国中121位だということがそれをよく表しています。腹落ちしていなければ物事は進みません。何のために、「ダイバーシティ&インクルージョン」を進めるのか、これを進めるとどういう効果があるのか、壁になっているものは何か、具体的にどうすれば進むのか、こうしたことをみなさんと一緒に考えたいと思います。

ディスカッション

本学におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進

～見えてきた課題への対応～

村木 厚子 氏	津田塾大学 客員教授
塚原 月子 氏	全国ダイバーシティネットワーク コーディネーター
弦間 昭彦	日本医科大学 学長
清水 一政	日本獣医生命科学大学 学長
土佐 眞美子	しあわせキャリア支援センター センター長

主催 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社
お問合せ しあわせキャリア支援センター 03-3822-2131（代）ext:5504、5505
お申込み app-shien@nms.ac.jp <https://one-health.jp/>

【女性研究者の研究力向上のための取組】 英語科学論文の書き方講座



動画

本当に分かりやすい！ 英語科学論文の書き方講座

講師 森田 明夫 先生 (日本医科大学 大学院教授)

対象

研究力向上を目指す女性研究者
論文執筆経験の少ない若手の研究者
論文指導をする立場の研究者

講座 (1)

症例報告や研究論文作成のプロセスと論文をどのような構成で作成していくのか、上手な英語科学論文の書き方として、3Sのルールや気を付けるポイント、さらに出版へのプロセス (rewriting、校正) 等を解説しています。

講座 (2)

具体例に沿って、データ収集方法と解析方法、査読者のやりとり等、国際雑誌に投稿する際の具体的な注意点、採択されるための理論的で説得力のある英語科学論文執筆について解説しています。

ご視聴は無料！こちらから
<https://one-health.jp/support/407/>



文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)

令和2年度 学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター 構成員

センター長	土佐 眞美子	日本医科大学付属病院 形成外科 准教授
副センター長	柿 沼 美 紀	日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医学科 教授
運営委員	大石 由美子	日本医科大学 代謝・栄養学 大学院教授
//	若林 あや子	日本医科大学 微生物学免疫学 講師
//	眞野 あすか	日本医科大学 生理学(生体統御学) 講師
//	武藤 三千代	日本医科大学 スポーツ科学 准教授
//	船 坂 陽 子	日本医科大学付属病院 皮膚科 教授
//	保 利 陽 子	日本医科大学付属病院 麻酔科 講師
//	石 渡 明 子	日本医科大学付属病院 脳神経内科 非常勤講師
//	塚 田 弥 生	日本医科大学付属病院 循環器内科 病院教授
//	荻田 あづさ	日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科 講師(教育担当)
//	田 嶋 華 子	日本医科大学武蔵小杉病院 小児科 助教・医員
//	堀 純 子	日本医科大学付属病院 眼科 教授
//	関 口 敦 子	日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科 病院教授
//	神田 奈緒子	日本医科大学千葉北総病院 皮膚科 病院教授
//	植 木 美 希	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科 教授